



宮城県亘理町立 亘理小学校

授業の隙間時間をなくし、効率的な学習を

～ 難易度別のドリルで頑張った！を実感～

亘理小学校では、一人一台タブレットの効果を検証しながら、eライブラリを活用しています。今回は、学習指示を使った授業と、ダウンロード学習を使った夏休みの課題の実践をご紹介します。

■ 難易度別の問題で手応えを掴む



▲ ノートと併用しながら問題を解きます

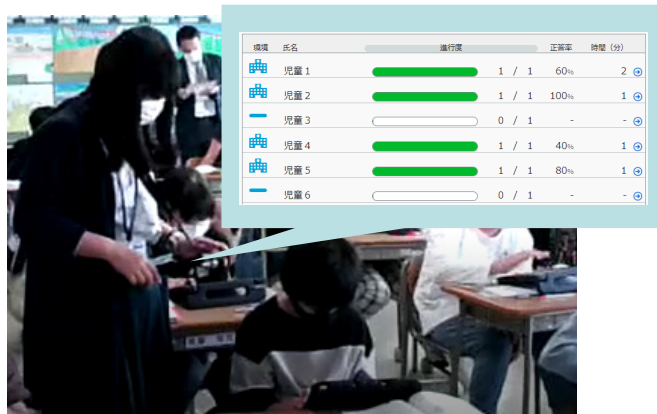
算数 6年：比例の関係をくわしく調べよう

この日の授業では、教科書の適用問題を終えた後に「学習指示」で先生から出題された問題に取り組みました。

教科書の適用問題が少なく、物足りないときでもeライブラリのドリルで難易度別に多くの問題にチャレンジすることができます。

自分に合わせた難易度の問題を自分で選び、真剣に解き進めていました。

■ 進捗もタブレットでリアルタイムに確認しながら机間指導



▲ 進捗度のグラフの伸びをチェックします

先生は机間指導をしながら、タブレットでリアルタイムに課題の進捗を確認し、**個別にフォローを行います。**

児童の学習結果はすぐに反映されるため、授業後にクラスの平均点や個人成績を確認して、正答率が低い時はプリントで補充を行ったり、出題する課題の指示について再確認したりと、**授業を見直すきっかけにもなっています。**

インタビュー

得意・不得意に関係なく、児童の力を伸ばせる

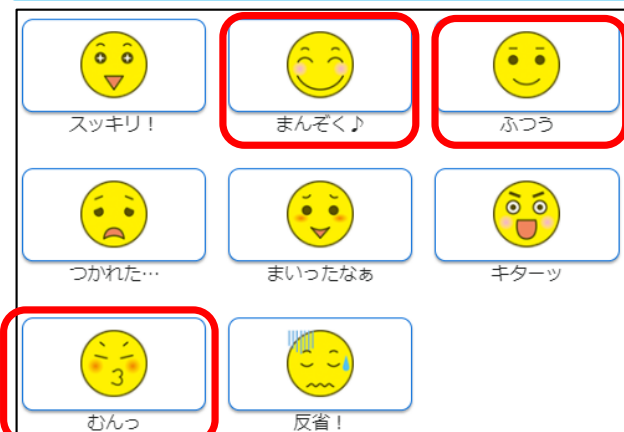
eライブラリは適用問題が充実していて、レベルに合わせた問題に取り組めるのが一番のメリットだと感じています。授業のまとめにeライブラリを使うことで、勉強の苦手な児童をフォローしている間も、得意な児童は**自分で次々と問題に挑戦できるので、隙間時間をなくし個別最適化された効果的な学習を行える**ようになりました。

学力調査では1、2問の正誤で結果が大きく変動してしまうため、勉強の苦手な児童を底上げするのはもちろんのこと、得意な児童があと1問解ける力をつけることが全体の伸びに関わってきます。児童が手応えある問題に挑戦し、「**難しかった**」と言いつつも頑張っ**て解いていくことが力をより伸ばし、学校全体の数字に繋がっていく**と感じています。



情報担当
咲間 弓絵 先生

低学年でも使えるスタンプでタブレットに慣れる



▲3つのスタンプに絞り、1つ選んで送信します

咲間先生はタブレットが導入された昨年度、2年生を対象に「今日のふりかえり」のスタンプ機能を使って授業の感想のやり取りをしました。3つのスタンプからその日の授業の達成感を選んで送信します。

スタンプは文字入力難しい低学年でも、簡単に達成度や思いを先生に伝えることができます。

低学年にとって、親しみのあるスタンプがタブレット活用のスタートになりました。

夏休みの持ち帰り学習でダウンロード課題に挑戦



▲指定された課題をダウンロードし、持ち帰ります

巨理小学校では夏休みの宿題として、3年生以上を対象に算数のドリルをダウンロードし、タブレットの持ち帰り学習を実施しました。取り組んだ課題は2学期の始業式の日に出しました。

提出の結果から、7月中に全て終わらせていたり、算数の苦手な児童が全ての難易度の問題に挑戦していたり、興味を持って積極的に取り組んでいた様子がうかがえました。

インタビュー プリント集や宿題集を作らず業務軽減に

夏休みの課題をeライブラリに変えたことで、先生方は**夏休みのプリント集や宿題集を作成する時間や、大量の丸つけの時間が省け、業務軽減に繋がりました。**

eライブラリは何回でも繰り返しチャレンジできるので、勉強に苦手意識を持っている児童にとって**意欲をかきたててくれる有効なツール**だと感じています。今年度の全国学力・学習調査のアンケートでも、ICTを使って家庭で学習をしていると答えている割合が本校では高く、児童自身もタブレット学習をきっかけにICTを使った家庭学習に興味を持つことができています。



研究主任
中村 丈夫 先生

ゴールを決めて自己決定力も身に付けてほしい

eライブラリで身に付けて欲しい力は「**基礎学力**」と「**自己決定力**」です。何度でも繰り返し学習でき、いつでも採点できるのがeライブラリの利点ですが、**どの難易度の問題を選択し、どこまでやるのかというゴールも、自分自身でみつけないことも大事**であり、その指導も教員や家庭で担っていく必要があると感じています。

今後もあらゆる状況に備え、オンライン授業での活用や、学校を欠席しがちな児童へのフォローアップのツールとして、活用を考えていきたいと思っています。



校長
奥山 浩二 先生